

令和4年第13回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和4年7月7日（木）午前10時00分
- 2 閉会日時 令和4年7月7日（木）午前10時20分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

（委員）

教育長 五十嵐 俊子	委員 坂本 真理子
委員 大日方 邦子	委員 平岩 国泰
委員 松澤 香	委員 松本 理寿輝

（事務局職員）

教育委員会事務局次長	菅原 幸信
教育DX政策推進特命部長	小泉 武士
教育委員会事務局参事	篠原 保男
学校施設整備調整担当課長	堀江 崇
学務課長	横手 麻理
教育指導課長	渡辺 浩一
教育センター所長	小林 繁
地域学校支援課長	小林 由江
副参事（特命担当課長）	（教育センター所長兼務）

（書記） 小山 夏紀 伊藤 伸雄

- 5 会議の概要 別紙のとおり

議案第39号 渋谷区教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について

報告

- (1) 令和3年度「ユニークな子どもたちを支えるための学習とコミュニケーションに関する研究事業」事業報告について

[資料1：令和3年度『ユニークな子どもたちを支えるための学習とコミュニケーションに関する研究事業』報告]

議事運営等

- 令和4年第13回教育委員会定例会を開会
- 議事録署名に松澤委員を指名

■ 教育長報告要旨

○ まず、6月22日から24日にかけて、小学校特別支援学級連合移動教室を実施し、山梨県立愛宕山少年自然の家に行った。小学校7校の特別支援学級在籍の5年生、6年生30人が参加し、天候にも恵まれ、豊かな自然に触れながら友達との交流を楽しんだ3日間となった。また、7月21日から夏季休業が始まるが、小学校5年生、6年生の宿泊事業も当初の予定どおり実施する予定である。宿泊事業は、ここ2年間、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や、時期・内容の変更等を余儀なくされた。学校では、感染症対策を徹底しつつ、熱中症対策も図りながらの実施となるが、子供たちの思い出に残るものとなるよう、教育委員会としても学校をしっかりとサポートしていく。次に、6月27日には、第1回神南小学校建て替え準備委員会を開催した。準備委員会は、令和7年度からの青山病院跡地仮設校舎への移転と、神南小学校建て替えに伴う対応について検討するための会議体として設置した。校長・副校長を始めとして、PTAや町会、学校施設開放運営委員会、青少年対策地区委員会等の代表者など、学校運営協議会の委員が中心となり、今後、ハード・ソフトの両面の課題等について検討していく予定である。今年度は、神南小学校と同時期に仮設校舎への移転及び建て替えが始まる広尾中学校及び松濤中学校についても、順次、準備委員会を設置する予定としており、関係者の合意形成を図りながら、計画の円滑な推進を図っていく。最後に、7月2日は、猛暑の中、『“第72回社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～「第40回社会環境を明るくしよう渋谷区民のつどい」』が、3年ぶりに開催され、区内の8校の中学校から代表生徒8人が、意見発表を行った。多くの参加者の前で堂々と意見を述べる中学生に大きな拍手が寄せられ、未来社会の担い手としての頼もしさを感じた。

◆ 議案第39号

渋谷区教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について

—◇ 説明要旨 —————

非公開

◆ 報告1

令和3年度「ユニークな子どもたちを支えるための学習とコミュニケーションに関する研究事業」事業報告について

—◇説明要旨 —————

(※別紙資料1に基づき教育センター所長が説明)

○令和3年度「ユニークな子どもたちを支えるための学習とコミュニケーションに関する研究事業」事業報告について説明する。この事業は、東京大学先端科学技術研究センターへの委託事業で行っているもので、より多くの児童・生徒に個の実態に応じた多様な教育機会を提供することを目指すものである。課題としては、けやき教室にも通室できずに家にとどまっている子どもたちへの支援が挙げられている。この課題を受けて、東大先端研と協議しながら今年度の事業プランを立てたので、説明する。資料1-3は、学校の先生方が手にしたときに、本事業がどのようなものか分かりやすいように作成したものである。まず、事業名を変更し、「スペシャルニーズがある子どもたちを支えるための個別最適な学びに関するサポートプロジェクト」とした。また、本年度より、教育長と東大先端研中邑教授のオンラインミーティングを月1回開催し、協議を重ねながら、「一人一人にあった学びの場で、個性を伸ばし、生き生きとした毎日を送るためのプログラム」の提供を目指しているところである。子供へのサポートは、不登校児童・生徒とけやき教室通室生へのサポートを重点において、ABLプログラムを実施する。また、授業中のサポートや放課後のサポートに加えて、本年度新たな企画として、夏休みのサポートとしてサマー体験教室を計画している。資料1-4は、東大先端研が作成した案内である。夏季休業期間中の7月26日、27日の開催で、東京大学の敷地内で、夜の昆虫採集を行うプログラムとなっている。プログラムには、1泊2日の昆虫採集コースと、1日目の参加のみの2つのコースが用意されている。1泊2日の昆虫採集コースでは、東大先端研で研究者の話を聞き、夜にライトトラップを仕掛け、アジア蛾の研究者と語り合いながら昆虫採集をする計画となっており、日常とは違う環境の中で、体験を通して学ぶプログラムとなっている。より多くの児童・生徒、保護者が本事業に興味を持ち、1人でも多くの児童・生徒がラーニングリソースセンターに登録いただけるよう、周知についても徹底していく。

—◇質疑応答 —————

(松澤委員)

○明確に一定の病名が付く場合ではない児童が増えているなか、渋谷区におけるダイバーシティの観点からもこのような取組は素晴らしいと思う。また、都内に住んでいるとなかなか昆虫に触れる機会が少ないので、「夜の昆虫採集×パジャマナイト」はとても良い企画だと感じた。

(平岩委員)

○放課後クラブと交流があるのか教えてほしい。

(地域学校支援課長)

○放課後クラブでは、通常から特別支援学級の子供たちと分け隔てなく生活をしている。また、今年度から特別支援学校の児童1人を週1回放課後クラブにテストケースとして引き受けを始めたところである。特別支援学校の子供たちと通常学級の子供たちが自然に関わり合える環境を少しずつ作り始めている。

(平岩委員)

○放課後は子供たちの長所に注目することで、今までにないアプローチをすることができるので、インクルーシブな場として最適な場所だと考える。人手や予算等で大変な部分もあるかと思うが、渋谷区として頑張っていたきたい。また、不登校気味の子供がアフタースクールに来るケースがあるが、これはセーフティーネットになっていると考えるので、そのような役割を学校として積極的に持っても良いと思う。学校が困っている問題に放課後クラブがサブエンジンのような役割を持つ存在になると、学校との関係性も良くなると思う。

(坂本委員)

○プログラムへの参加方法について教えてほしい。

(教育センター所長)

○渋谷区ラーニングリソースセンターに登録をして参加していただく。

(坂本委員)

○人数が多い場合は選抜になるのか、それとも受付順で決まるのか。

(教育センター所長)

○定員を超えた場合は厳正なる抽選を行う。

(松澤委員)

○様々な年次の子供や大人がいる場所だと、教育的なサポートができると思うので、放課後の活用は大事だと考える。また、子供が参加するに当たり、特別な扱いをされたくないという親側の心理的なハードルがあった場合、教育委員会としてどのようなアプローチができるのか教えてほしい。

(教育センター所長)

○本事業に関してハードルが高いという意見はない。できる限り多くの方に関心を持っていただけるように、呼び掛けをしていきたいと思う。

(教育長)

○先日の校長会で中邑教授にミニ研修という形でお話しをしていただき、事業の趣旨を伝えている。その趣旨を受けて、校長先生からも勧めていただくことを考えている。

—◇議事結果 -----

○了承する。

議事終了 閉会

上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 五十嵐 俊 子

委員 松 澤 香